

## 医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	当院における内視鏡的異物除去術の後方視的検討
所属科*	消化器内科
研究責任者*	法水 淳
研究実施期間	開始 西暦 2024年 2月 日 ~ 終了 西暦 2027年 3月 31日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	異物誤飲 (約 300 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2010年 1月 日 ~ 至 西暦 2023年 12月 日
研究概要*	<p>【背景】消化管異物は日常診療でしばしば遭遇する病態である。乳幼児から高齢者まで対象は多様であり、異物の形状、大きさ、内容物によって、緊急性が異なる。また異物の形状や大きさに応じて、使用する処置具を適切に選択することが必要となる。異物を摘出する場合、消化管壁の損傷や出血、穿孔といった偶発症が起こりうる。形状が鋭利な異物では、摘出する以前から異物が消化管壁に突き刺さって穿孔している場合があり、事前に安全に除去出来るかどうかの評価も必要となる。消化管穿孔において、大きな穿孔や保存的治療で軽快しない場合、時期を逸しないように外科手術が必要となる。</p> <p>内視鏡的異物除去術において有効に除去を行う処置具、消化管損傷防止用の器具、工夫等が報告されているが、方法論は統一されておらず、また当院における内視鏡的異物除去術の特徴、有効性や安全性等に関わる因子に関しては明らかではない。</p> <p>【目的】既存の診療情報を用いて、当院における内視鏡的異物除去術の特徴、治療の有効性・安全性等に関わる因子に関して検討する。</p> <p>【方法】当院で2020年1月～2023年12月の間に、内視鏡的異物除去術を行った約300例を対象に、既存の診療情報（血液検査、画像検査、内視鏡治療内容）、臨床経過の閲覧・評価を行い、当院における内視鏡的異物除去術の特徴、治療の有効性・安全性等に関わる因子に関して検討する。</p>

別紙第2号様式

倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	連結可能匿名化を行う。対応表はそれぞれの部署（施設・研究室）で厳重に保管する。本研究で得られたデータを当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。
研究の問い合わせ先*	大阪労災病院 消化器内科 法水 淳